小路口石材通信

一　期　一　会

Vol,31
2014,6,20



兄弟でお墓の据え付けをしています。
力仕事は社長の担当です。



朝の環境整備ではお店の前の植栽の剪定を行いました。



深井君も少しずつ据え付け作業を身につけています！



女性スタッフも元気に頑張っています！



四才児のお墓まいりも段々板についてきました。
最近では自分が掃除するところはココ！と決めているそうです。



今年もお店の前の紫陽花が綺麗に咲いてくれました。



五月後半から徐々に日射しが強くなり、現場では日焼け防止の装備にも気をつかっています。



鉢ヶ峯では新緑が鮮やかな季節となりました。

社長ごあいさつ

梅雨の晴れ間にのぞく太陽から少しずつ真夏の訪れを感じる季節となりましたが皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

四月後半から六月にかけまして、弊社は例年春のお彼岸から八月のお盆までの間の期間ということもあり、少し時間に余裕の出来る時期でありましたが、今年は年始から平均的に工事のご依頼を頂き、毎日を忙しく過ごす事が出来ており、大変感謝致しております。

さて、私の近況でありますが、この二ヶ月間は親しかった方やお世話になった方が複数お亡くなりになられ、少し落ち込んだ気分になる事もありましたが、改めて人間の死生観について考える機会となりました。

ごく当たり前な話ではありますが、はこの世に生まれてきた以上、誰もがいつかは必ず死を迎えます。

あるお寺さんの納骨法要の後の説法で聞いた話ですが、誰もが普段は生きている事が当たり前だと思い生活していますが、実はこの世に無限といわれる生命体の中でも人間として生まれて、今ここでこうして私達が会話をしている事自体が、実はすごく奇跡的で運命的な事なのです。だから今を生きている事を深く感謝し、輝く人生を送って下さい、と仰っていました。

一般に生きている事を感謝するということは、現実が充実した人生でないと、とても考えることなど出来ないかもしれません。しかし、何にでも感謝する気持ちを身につける事でどんな現実でも受け容れて充実したものに変える力が身につくと私は思います。また、その姿勢を身につける為の最適な場所の一つがお墓であると思います。

これからお盆やお彼岸とお墓参りの機会が増える季節となりますが、今一度ご先祖様への感謝を持ってお参りされてみてはいかがでしょうか。

小路口　欣弘

～今月の小路口石材活動記～



パークフォレスト鉢ヶ峯の霊園清掃中です。随時好評分譲中です。



B様邸、石垣へ物干し竿を利用した手摺りの取付を行いました。



B様邸、ご希望により不慣れな剪定作業に挑戦しました。



鉢ヶ峯にてS様墓石建立工事、完成時の写真です。



家紋を浮かし彫りにした特別製の表札を製作しました。



福井県鯖江市の(有)ファイン様の環境整備発表会に参加させて頂きました。





今では手の平からエサを食べるようになりました。

お墓物語　プレゼントします

お墓にまつわるエピソード集、『お墓物語』のプレゼントを引き続き行っています。心温まる三十三の文集で、家族や命の繋がりの尊さを感じていただける一冊になっております。お申し込みはお電話・ＦＡＸ・eメールで随時受付しております。

編集後記

「小さな楽しみを見つける」

三人の娘達と朝の掃除を続けていますが、娘も上から小学校四年生、三年生、幼稚園年中とそれなりの年頃に成長していますので、近頃段々とマンネリ化していました。そんな時に、近くの公園にいたハトがエサも持たない子供達の跡を何故かつけてくるようになり、毎日少しずつ家の近くまで寄ってくるようになりました。子供達も後ろをついてくるハトに喜んで、それが毎日の楽しみになったようです。今では家の前で掃除が終わるころにどこからか飛んできて、娘達がエサをあげることがお互いの日課になりました。私自身は以前工場に住みついたハトの糞害で悩まされた経験があり、全く好印象がありませんでしたが、今回はハトに感謝しないといけないなと思いました。

発行元
お墓のリフォーム専門店
小路口石材
小路口石材　検索
小路口石材工業株式会社　〒591-8034堺市北区百舌鳥陵南町１－１３
tel.0120-78-5461　http://sakai-boseki.com
月に一度の心のお掃除
お墓参りにいこう

今月のリフォーム工事

施工例①　霊標の改葬工事

堺市内の寺院様のお墓で代々のご住職をお祀りしている霊標二基の彫刻スペースがなくなり、今回三期目の霊標を増設する工事を行いました。

今回のこだわりは、限られたスペースでいかに文字を見やすく出来るかがポイントで、台となる足の部分を下の左の写真のようにそれぞれの高さを変えて、ひな壇状に加工しました。このデザインにより、霊標どうしの高さやスペースが適度に開き、全ての文字が見えるようになりました。

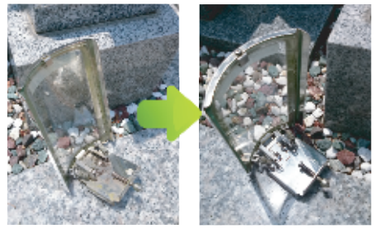



施工例②　ローソク立の掃除

写真は石のローソク立に付いている扉状の風防です。

長年使用していますと、ガラス部分に蝋の膜が張ったり、コケがこびりついたりします。

今回は歯ブラシとウエスでガラス部分とステンレス部分を掃除しました。ほんの少しの手間ですが、見違えるほど綺麗になりました！



専務和弘の　仕事へのこだわり



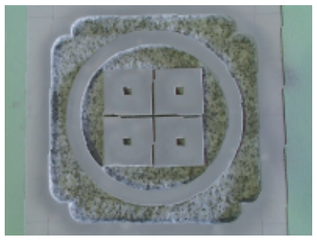
よくお客様に聞かれるのですが皆様は石に文字を彫刻する時にどのようにして彫刻していると思いますか？

昭和４０年代以前は熟練の字彫り職人が一面彫刻するのに何週間もかけて手作業でノミとせっとうと呼ばれるハンマーを使い、彫刻していましたが、今はサンドブラストという高圧でカーボン製の砂を吹き付ける機械で彫刻しております。機械といっても、自動で彫れるわけではないので、その過程には熟練した職人の技術が必要になります。

昭和４０年代から現在に至るまでの間、文字彫刻はほぼ全てサンドブラスト加工になりましたが、近年ではノミ切りやタタキ仕上げといった手加工の技術が業界内で見直されつつあります。単純な生産性という視点から見ると、何十倍も手間と費用のかかる手加工のお墓が今後主流になることは考えにくいですが、仕上がりの一点に焦点を絞ると手加工に勝るものはありません。

弊社では少し前からそういった手加工への取り組みを少しずつではありますが取り入れています。現段階では、家紋の浮かし彫りの一部分をサンドブラストで彫刻し、仕上げを手加工でタタキ仕上にするといった方法を研究しています。この作業はノミで額縁の隅のギリギリの部分まで叩き目をつけて仕上げますが、少しでも縁の磨きの部分に当ててしまうと石が欠けて取り替え・・・といった事態になりますので相当な技術を要した職人が最大限に神経を集中させなければなりません。

一般的にはわざわざしなくても良い加工ではありますが、お客様に少しでも大事にして頂けるお墓づくりを目指して今後も研究を重ねていきたいと思います。（和弘）


従来のサンドブラスト彫刻での仕上がり写真です。


石の縁が欠けないように慎重に削り込んでいきます。


タタキ仕上げの家紋彫刻の完成です。

研修レポート　環境整備発表会　in福井

5月17日、社長と親交のある福井県鯖江市の有限会社ファイン様の環境整備発表会に社長、専務、私の三名で参加させて頂きました。

私はこの発表会に参加させていただくまで環境整備の重要性をあまり理解していませんでしたが、ファイン様の会社に着き、中へ入った際の印象はこれが本当に作業場なのか?というものでした。

ファイン様は眼鏡のフレームの特殊印刷をしておられ、印刷工程で使用するインクが床や壁に付いてしまうのですが、作業場内にはその跡がまったく見られず、素足で歩けるほど綺麗な状態でした。

発表会では社員の方々が、そうじを楽しく行っている様子が伝わっており、仕事だからやらないといけないという雰囲気ではなく、やると楽しい、こうしたらもっとよくなるんじゃないかという自主性があると強く感じました。

発表会を通じて学んだ事を活かし、日々の実践に取り入れてこれからも精進をしていきたいと思います。（深井将太）


整然とした作業場内を見学させて頂きました。


事務机の引き出しも徹底した整理整頓が行き届いていました。


会社に帰って早速道具棚を整理・整頓してみました。

お墓参りの注意事項

つい先日の工事中に起きた出来事です。一人でお墓へお参りに来ていたお婆さんが、お供えに持ってきていたお線香を束のまま火をつけていました。

線香は束のまま火をつけると燃え上がる火を一旦消しても、またたいまつのように燃え上がることがあります。この時もお婆さんが持っていた、一旦火が落ち着いていた線香から炎が燃え上がりました。

その瞬間・・・お婆さんの首に巻いていたスカーフに燃え移り、一瞬でお婆さんの上半身が炎で包まれてしまいました。

近くで見ていた兄が慌てて工事用に汲んでいた水をかけて火は消え、お婆さんも大事には至りませんでしたが、周りに誰もいない状況だったら・・・と思うと本当に恐ろしい出来事でした。

これからお盆、お彼岸とお墓参りの機会が増える季節がやってきますので、皆様、安全で有意義なお墓参りをして下さい!!!　（欣弘）



今月の読書「風の向こうへ駆け抜けろ」

今月は師の黒田先生の薦めでお借りした一冊を読んでみました。下のブックカバーの写真に小さく描かれているように、競馬を題材とした小説です。

私自身生まれて三十余年間、全く競馬に興味を持ったことがないので、読む前のイメージとしては競馬=賭け事という意識が強かったのですが、内容は主人公であるジョッキーの養成所を卒業した十代の女の子が今にも潰れそうな地方競馬場から中央の大舞台に挑戦するまでの過程を描いた人間ドラマとなっており、ジョッキーの真剣さはもちろん、厩舎の人達や馬、馬主までレースに関わる全ての人間が心を一つにして大きなレースに挑む姿は今までのイメージが大きく変わり、感動しました。

特に主人公が就任した厩舎では人間関係に大きな確執があり、レースどころではなかった状態から、主人公のレースに勝ちたいという純粋な気持ちが少しずつ周りの人間の固まった心を紐解いていく姿は、自分自身の人間関係においても当てはまる部分が多く、改めて物事に取り組む主体的な姿勢の重要性を認識することが出来ました。　（欣弘）

